



1_アクシデントを乗り越えて上演された高玉芝居 2_釜の越農村公園に設置された「べにたかちゃん顔出しパネル」で記念撮影する姿も多く見られた 3_白鷹町の古典桜の中で“最高齢”の薬師ザクラ。今年も元気に咲き誇った 4_「置賜さくら回廊」の幕開けとなった「花咲けイベント」 5_町内の自慢の銘菓をはじめ、地酒やお漬物、手作り雑貨など、観光客に大好評だった

古典桜の里に春が到来 サクラ咲いて、笑顔咲く

ようやく暖かくなってきた4月中旬、待ちわびた春が古典桜の里にやってきました。

4月14日、白鷹町、長井市、南陽市のそれぞれの桜の名所を結ぶ「置賜さくら回廊」のオープニングセレモニー「花咲けイベント」が、殿入公園で開催されました。殿入ザクラはまだつぼみの状態でしたが、ひがしね保育園の園児たちが歌や「おどる！シラタカ・レッド」のダンスで盛り上げ、花咲かじいさんと一緒に開花を願ってもみ殻をまくと、会場にたくさんの笑顔の花が咲きました。

釜の越農村公園では、同日から「釜の越・薬師さくらまつり」がスタート。4月16日と23日に、それぞれ「さくらさくらステージ」のパート1とパート2が開催され、さくらの保育園や荒砥高校吹奏楽部、よさこい白鷹櫻鷹會などがダンスや演奏、舞などでまつりを盛り上げました。

4月22日には、恒例の「高玉芝居」が釜ノ越サクラの下で上演されました。先の強風によりステージが倒壊し、一時は開催も危ぶまれましたが、児玉敏座長(高栄会)の強い意志と地元有志の皆さんの力でステージを修復。当日は、満員御礼の会場でいつも以上に力の入った迫真の義理人情劇を演じ、観衆を魅了しました。

翌4月23日には、「～花ウォーク～白鷹古典桜・さくら回廊そぞろ歩き」が開催され、町内外から約40人が参加。蚕桑駅を出発し、古典桜を巡りながら四季の郷駅までの道のり(約12km)をゆっくりと歩きながら、春のひとときを楽しみました。

観光に訪れる人の心の安らぎの場に—— 佐野原五百羅漢園が開園

4月22日、町内佐野原の最上川河畔に「佐野原五百羅漢園」が開園しました。

この羅漢園は、新興開発株式会社(竹田良一代表)が約3年をかけて整備したもので、園内には500体の石像が一体一体さまざまな表情を浮かべて並んでいます。この日、開園に合わせて行われた開眼法要には町関係者など約90人が出席し、竹田代表が「訪れる人の心の安らぎの場となればうれしい」とあいさつ。町内外から多くの観光客が来場し、その壮大な光景に圧倒されていました。



晴れ渡る空の下、開園に合わせて行われた開眼法要